

一喜一憂

No.4

「一喜一憂」

情況の変化に喜んだり、心配したりすること

藤屋 侃士

下松市幸ヶ丘

「三寒四温」お体に注意を!

弥生三月という言葉のずと元気がもらえの響きが好きだ。もの

寂しげだった景色が花の色に彩られていくぞ

中、鳥や虫、そして私たちも少しずつ活動的になりだして、自然界も賑やかに動き始めた。先日、庭のアーモンドの木に丸っこい鳥がつぼみをつつきに来ていた。冬ごもりから目覚める命の息吹きにお

3月6日は啓蟄(けいちつ)。啓は開く、蟄は冬ごもりの虫をあ



アーモンドのつぼみ



冬を越したビオラとパンジー

人はストレスを引きずりにくいというデータもあるそうだ。

日常、ありがとうを連発し、ちよつとの幸福感、満足感を味わう一日を体験してみたいかがですか？私ですか。

今さら、もういいよ。

《風 雑感》

今ごろ吹く風も強弱や寒暖によつて様々な名前がついている。

「春風」「恵風」また、低気圧が日本海を発達しながら進むことで発生する強風は「春嵐」「春疾風(はるはやて)」また、うららかな春の日差しの中をそよ風が吹き渡る様子を表現する「風光る(かぜひかる)」という日本独特の美しい表現もある。

が赤いテントウムシとダンゴムシを見つけた。陽気に誘われて外に出たくなるのは人間も虫も同じ。何となく心がウキウキ、ソワソワ。厚手のコートを脱いで出かけたかと思っていた途端、急に寒くなり、「冬のコートでお出かけ下さ」とテレビのアナウンサーが呼びかけている。

「ありがとう」が多

物の本を見ていると「サン(3)」と「キュー(9)」の語呂合わせから、ありがとうの日は語源は「有り難し」で減多にならないうつた意味。結婚式の司式司祭はメッセージで寝る前に手を取り合って「今日一日ありがとう」と言うことを勧められ

《三月九日》

「今日一日ありがとう」と言うことを勧められ



蕨のとう